

概要報告

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 総合的な学習の時間部会

テーマ 『防災教育を通して、自ら考え自ら判断する力を育む』

提案概要

○実践に向けての課題意識

- ・校内アンケートや学習状況調査の結果から、知識などを覚える力はあるが、その知識を生かし、その知識をもとに自ら考え答えを出す力が足りないという傾向がみられた。また、提案校は、海岸からグラウンドまで100m程に位置し、海拔も3mという立地にあり、大震災の際には津波による大きな被害が予想される。そこで、防災教育を通して、防災イメージを高め、自ら考え、自ら判断し、自らの命を守る力を育むことを目指し、実践に取り組んだ。

○実践の概要

・津波に対する避難訓練

津波からの避難を想定し、全力で避難場所まで走って向かう訓練を行っており、近年上履きも底の薄いものから、シューズタイプの底の厚いものに替えた。避難経路の道路や建物、交通の様子を確認しながら、また実際の状況を想定しながら、身をもって避難の大変さや難しさを実感できる訓練である。

・各教科との関連

理科の地震の内容においてICTを活用し、津波の被害予想や標高地図などから避難の仕方などを考え、「個→集団→個」のサイクルを行う中で、他者の意見を参考にして思考を再構築し、学びを深めた。

他にも音楽科の「いつかこの海をこえて」の合唱や美術のピクトグラムなど、それぞれの教科ができる防災教育の視点を横断的に取り入れている。

・防災巻（実践の中心）

知る・・・ 実際の地震や津波の様子、被害の様子の動画や画像を見る。

学校内や周辺の写真、学校周辺の標高地図を見たり、地図ソフトを用いて帰宅経路の様子を探ったりして、周辺の高い建物を探す。

書く・・・ 災害において現実でありそうな、より具体的な設定をする。ジレンマが生じる厳しい設定をすることで生徒の思考を深める。

防災巻の作成を行う。あらゆる状況を想定させて考えさせる。その際には、あくまで生き残るための方法を考えさせる。

見合う話合う・・・ 班員の防災巻を見合い、考えられる他の危険性や危機からの回避策を付せんを書いて貼る。

近くに住んでいる班員と互いに気付いたことや改善できる行動や避難方法について話合いながら考える。

他者の考えを聞き、防災巻を書き直し、より良い避難について考える（思考の再構築）。

○成果

- ・イメージする力が付き、より具体的な避難行動を考えられるようになった。
- ・防災について考える必要性を感じ、自ら考え自ら学ぶ意欲へとつながった。
- ・学んだことを発信し、共助や公助の気持ちが芽生えた。

○課題

- ・全体計画として、各教科による防災教育の取組とどのように関連させていくか、工夫が必要となる。
- ・全校や学年での取組となるので、全教員が事前に研修にて学び、イメージを深めておく必要がある。

質疑概要

質疑：防災巻のアンケートは何年生対象か。また、1年生と3年生で実施するなかで比較したときの違いは何か。

応答：アンケートに関しては2年生で実施したものである。1年生に防災巻を実施する際には、どのように書いたら良いかある程度示していかないと難しい。3年生は積み重ねた内容があるので個々人で差はあるがイメージ

をもって書ける生徒が多い。

質疑：走って避難訓練を行うことで、地域への配慮や諸機関への連絡もあると思われるが、どのような経緯で実施にまで至ったのか。

応答：以前から実施していたもので実施までの経緯は分からないが、実施するにあたり警察への連絡やPTAの協力があって成り立っている取組である。実際に訓練に対する生徒の感想としては、「避難することが大変だということがあった。」という意見も多くあり、さらに防災イメージーションを膨らませるものとして取り組んでいる。

研究協議概要

○防災巻体験を通しての協議内容

- ・地震発生時刻など葛藤を生じるような設定が大切であり、各校の状況を踏まえて考えることが大事である。
- ・今回の体験を通して、イメージを膨らますことで、より実態に即した避難訓練などの再検討が必要であると感じた。

○グループ協議 ①各校における防災教育の取組について。

②総合的な学習の時間における思考力、判断力、表現力等を育む取組について。

1班： ①避難訓練を実施している。

②鎌倉散策や福祉施設訪問、職場体験（5日間実施）などを行っている。

2班： ①防災学習については避難訓練、集団下校、引取訓練など。全校や年間を通しては取り組めていない。

②行事を活用しながら実施しているが、新たな内容を現在のカリキュラムに取り入れるのは難しい。

3班： ①避難訓練、引取訓練、地域との避難所運営訓練（炊き出しや仮設トイレの設置）を実施している。

②発表の仕方を工夫して、ブース形式での実施などを行っている。

4班： ①避難訓練、煙体験、水消火器、簡易トイレ、テント設営、防災倉庫見学などを実施している。また、地域の消防署と連携して取り組んでいる。

②平和学習として貸し出しキットの展示などを行っている。自分たちでテーマを決めて、集団で学びを深め、発表し、振り返る流れを大切にしている。

5班： ①避難所運営プラン作り、マンホールトイレや震災経験者の講演会などを実施している。

②学年行事に留まらず、学校全体として組織的にできることが望ましい。

6班： ①地域の方とともに防災マップ作成や災害時のアイテムづくり（スリッパなど）、ジレンマが生じるような内容を考えさせる取り組みをしている。

②新聞記事をまとめて発表したり、学級をこえてテーマを調べて研究発表会を実施したりしている。

7班： ①役場の方と連携して避難所解説ゲームを実施している。

②新聞を使用した探求の時間を設定している。

8班： ①小中連携の引取訓練、地域の方とハザードマップづくりや炊き出し訓練を行っている。

②各学年でテーマを決めて調べ、発表する活動をしている。

まとめ概要

- ・「論点整理」では、2030年の社会で生き抜いていけるかを視点に置いて、何ができるようになるのか、何を学ぶのか、そして、どのように学んでいくのが課題となっている。その中でも、課題の発見、解決に向けた主体的、協働的な学びが重要視されており、総合的な学習の時間の目標と合致している。
- ・今回の内容にも組み込まれていたが、総合的な学習の時間において、今の活動が探究的な学習になっているのかを考えるにあたり、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つのプロセスが大切である。
- ・防災教育を学校全体で取り組む意義を見出せるものであり、総合的な学習の時間の目標である5つの趣旨をしっかりとおさえた有意義な内容であった。また、防災について考えるという経験を繰り返すことで思考力、判断力を高められるものとなっている。
- ・防災巻に関しては、他者の意見を聞いて、自分の考えを変化させられるものであり、積み重ねた考えを発表することができ、地域に発信できるものにもなっていることから現代的な課題に対応するものといえる。また、防災巻の活用方法は各校の実態に応じて、導入やまとめで活用してもよいものである。